

(電子メール施行)
農技1074号
平成31年4月26日

関係機関長 様

兵庫県病虫害防除所長

平成31年度病虫害発生予報第1号を発表します。

平成31年度病虫害発生予報 第1号

向こう1か月の病虫害発生予想

作物名	病虫害名	発生予想	発生現況
イネ	苗立枯病	平年並	—
	ばか苗病	平年並	—
	ヒメトビウンカ (縞葉枯病)	やや多	平年並
ムギ	赤さび病	やや多	平年並
	赤かび病	平年並	少
	アブラムシ類	平年並	やや少
タマネギ	べと病	平年並	やや少
	細菌性病害	平年並	やや少
	灰色腐敗病	やや少	やや少
	ネギアザミウマ	やや多	平年並
春キャベツ	黒腐病	やや少	少
	菌核病	平年並	やや少
	アブラムシ類	やや少	少
	ヨトウガ	平年並	やや少
	コナガ	やや多	平年並
	モンシロチョウ	平年並	やや少
春レタス	菌核病	平年並	やや少
	アブラムシ類	やや少	少
イチゴ	ハダニ類	やや多	平年並
	アブラムシ類	平年並	やや少
	アザミウマ類	やや多	平年並

* 気象の概況

近畿地方 1か月予報

(4月27日から5月26日までの天候見通し)

平成31年4月25日
大阪管区气象台 発表

<予想される向こう1か月の天候>

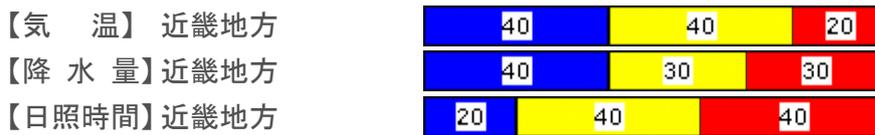
向こう1か月の出現の可能性が最も大きい天候と、特徴のある気温、降水量等の確率は以下のとおりです。

天気は数日の周期で変わりますが、平年に比べ晴れの日が多いでしょう。

向こう1か月の平均気温は、平年並または低い確率ともに40%です。日照時間は、平年並または多い確率ともに40%です。

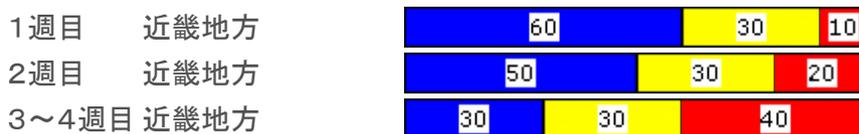
週別の気温は、1週目は、低い確率60%です。2週目は、低い確率50%です。

<向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率(%)>



凡例: ■ 低い(少ない) ■ 平年並 ■ 高い(多い)

<気温経過の各階級の確率(%)>



凡例: ■ 低い ■ 平年並 ■ 高い

<予報の対象期間>

1か月	:	4月27日(土) ~ 5月26日(日)
1週目	:	4月27日(土) ~ 5月3日(金)
2週目	:	5月4日(土) ~ 5月10日(金)
3~4週目	:	5月11日(土) ~ 5月24日(金)

* 発生概況及び防除対策上の留意点

イネ

1 【苗立枯病】

- (1) 予報の内容 発生量：平年並
(2) 予報の根拠

ア 育苗期はムレ苗になりやすく、昼夜の温度較差が大きいことから、発病が助長される可能性があるため、適切に換気をする必要がある。

イ 今後1か月の気象予報によると、降水量は平年並と予想され、気温の上昇に伴い、平年並に発病すると予想される。

2 【ばか苗病】

- (1) 予報の内容 発生量：平年並
(2) 予報の根拠

ア 現在のところ発生は未確認であるが、今後1か月の気象予報によると、降水量は平年並と予想され、気温の上昇に伴い、平年並に発病すると予想される。

3 【ヒメトビウンカ】（縮葉枯病）

- (1) 予報の内容 発生量：やや多
(2) 予報の根拠

ア 4月15日のムギ予察ほ場におけるすくい取り調査で成虫が認められた(3頭/10回振り)。成虫の発生時期としてはやや早い。

イ 今後1か月の気象予報によると、気温は平年並または低いと予想されているが、降水量は平年並の予想、季節の進行による気温の上昇によって、越冬世代成虫のムギへの飛び込みに伴い、次世代虫(第1世代虫)の増殖が進むことから、やや多い発生になると予想される。

ウ 前年秋の縮葉枯ウイルス保毒率(平成30年度病害虫発生予察技術情報第1号、HP <http://hyogo-nourinsuisangc.jp/chuo/bojo/index.htm>に掲載中)は、播磨地域で保毒虫率が高い傾向が見られており、特にこれらの地域では本病の発生に注意すること。

ムギ

1 【赤さび病】

- (1) 予報の内容 発生量：やや多
(2) 予報の根拠

ア 4月15日の予察ほ場の調査では発生は認められなかったが、同時期の現地調査では発病株率36.3%(前年値33.0%)となり、平年並に発生していると考えられる。

イ 今後1か月の気象予報によると、降水量は平年並と予想され、季節の進行によ

る気温の上昇によって、本病の発生はやや多くなると予想される。

(3) 防除上の留意点

ア 薬剤防除は、初期発生確認後すみやかに行う。液剤、水和剤の散布には必ず展着剤を加用する。

イ 薬剤散布を行う場合は、病害虫・雑草防除指導指針（兵庫県農薬情報システム）等を参考に薬剤を選定し、農薬使用基準を守ること。

(<http://www.nouyaku-sys.com/nouyaku/user/top/hyogo>)

2 【赤かび病】

(1) 予報の内容

発生量：平年並

(2) 予報の根拠

ア シロガネコムギの開花期は4月22日（加西市、農業技術センター）であった。4月中旬の予察ほ場における調査及び現地調査では発生は確認されていないが、今後1か月の気象予報によると、降水量は平年並と予想され、今後の気温の上昇に伴い、平年並に発病すると予想される。

イ 今後の降雨により、病勢が進展することも予想される。

(3) 防除上の留意点

ア 開花期防除が最も効果的であるが、実施できなかった場合には必ず薬剤散布を行い、実施できた場合でも天候によっては追加の薬剤散布を行って防除を徹底する。

イ 薬剤散布を行う場合は、病害虫・雑草防除指導指針（兵庫県農薬情報システム）等を参考に薬剤を選定し、農薬使用基準を守ること。また、2回目の防除にあたっては1回目と異なる薬剤を選ぶことが望ましい。

(<http://www.nouyaku-sys.com/nouyaku/user/top/hyogo>)

3 【アブラムシ類】

(1) 予報の内容

発生量：平年並

(2) 予報の根拠

ア 4月15日の予察ほ場における調査では、発生がわずかに認められている。

イ 今後、気温の上昇に伴い発生量が増加し、平年並の発生で推移すると考えられる。

タマネギ

1 【べと病】

(1) 予報の内容

発生量：平年並

(2) 予報の根拠

ア 4月中旬の巡回調査及び現地調査では発生は確認されていないが、関係機関による調査では、全身感染株と二次感染株を引き続き確認している。

イ 今後1か月の気象予報によると、気温は平年並または低く、降水量は平年並と予想され、天気は周期的に変わるとされており、ある程度の降雨が見込まれる。

以上のことから、今後、二次感染の増加が見込まれ、平年並に発病すると予想される。

(3) 防除上の留意点

- ア ほ場の発生状況を十分観察し、地域の防除暦やタマネギベと病対策マニュアル（技術者版）を活用して、薬剤防除を徹底すること。
- イ 薬剤散布にあたっては、タマネギの生育に応じた水量とし、散布ムラの無いように丁寧に行なうこと。
- ウ タマネギベと病の防除の徹底については、平成30年度病害虫発生予察防除情報第5号（平成31年3月6日付け）を参考にすること（HP <http://hyogo-nourinsuisangc.jp/chuo/bojo/index.htm>に掲載）
- エ 薬剤散布を行う場合は、病害虫・雑草防除指導指針（兵庫県農薬情報システム）等を参考に薬剤を選定し、農薬使用基準を守ること。
(<http://www.nouyaku-sys.com/nouyaku/user/top/hyogo>)

2 【細菌性病害】

- (1) 予報の内容 発生量：平年並
- (2) 予報の根拠

- ア 4月16日の巡回調査では発生ほ場率33.3%（平年値25%）であるが、4月19日の予察ほ調査では発生株率0.3%（平年値0%）、現地調査では発生ほ場率12.5%（前年値20.8%）であった。
- イ 今後1か月の気象予報によると、降水量は平年並と予想され、気温の上昇に伴って、今後、発病が増加して平年並に発生すると予想される。

3 【灰色腐敗病】

- (1) 予報の内容 発生量：やや少
- (2) 予報の根拠

- ア 3月下旬の現地調査では発生ほ場率17.9%（前年値4.2%）であったが、4月16日の巡回調査及び現地調査では発生は認められなかった。
- イ 今後1か月の気象予報によると、降水量は平年並と予想され、やや少ない発生で推移すると予想される。

4 【ネギアザミウマ】

- (1) 予報の内容 発生量：やや多
- (2) 予報の根拠

- ア 4月上旬の現地調査では発生は認められなかったが、予察ほ調査では寄生株率60%、1株あたり成虫1.2頭、幼虫1.0頭と平年並の発生であった。
- イ 今後1か月の気象予報によると、気温は平年並または低いと予想されているが、季節の進行による気温の上昇によって、本種の増加に好適な環境になり、やや多い発生になると予想される。

(3) 防除上の留意点

- ア 寄生植物が多岐にわたるので、ほ場周辺の除草を徹底する。

ウ 薬剤散布を行う場合は、病害虫・雑草防除指導指針（兵庫県農薬情報システム）等を参考に薬剤を選定し、農薬使用基準を守ること。

<http://www.nouyaku-sys.com/nouyaku/user/top/hyogo>

春キャベツ

1 【黒腐病】

- (1) 予報の内容 発生量：やや少
(2) 予報の根拠

ア 4月16日の巡回調査では、発生ほ場率0%（平年値3.6%）と発生を認めなかった。今後1か月の気象予報によると、降水量は平年並と予想され、天気は周期的に変わるとされており、気温の上昇に伴って、今後やや少ない発病が予想される。

2 【菌核病】

- (1) 予報の内容 発生量：平年並
(2) 予報の根拠

ア 4月10日の巡回調査では、発生ほ場率16.7%（平年値23.6%）とやや少ない発生が認められた。今後1か月の気象予報によると、降水量は平年並と予想され、降雨により発生が助長されて平年並に発病すると予想される。

3 【アブラムシ類】

- (1) 予報の内容 発生量：やや少
(2) 予報の根拠

ア 3月上旬、4月上旬の現地調査では発生は認められなかったが、今後の気温の上昇に伴い発生が予想される。

4 【ヨトウガ】

- (1) 予報の内容 発生量：平年並
(2) 予報の根拠

ア 4月以降、加西市のフェロモントラップでは誘殺が続いており、成虫の発生時期としては平年よりやや早い。4月4半旬までの平均誘殺数は1.9頭/半旬と平年並であるが、成虫の発生が分散して5月中旬頃まで続くと考えられるので、次世代幼虫の発生も分散、長期化すると予想される。

5 【コナガ】

- (1) 予報の内容 発生量：やや多
(2) 予報の根拠

ア 4月以降、加西市及び南あわじ市の予察灯で誘殺が見られているほか、加西市のフェロモントラップは4月1半旬から4半旬までの平均誘殺数が5頭/半旬（平年値2.1頭/半旬）と、平年より早い時期から成虫の発生が認められている。

イ 今後1か月の気象予報によると、気温は平年並または低いと予想されているが、降水量は平年並と予想されており、季節の進行による気温の上昇によって、本種に好適な条件が続くことから、やや多い発生になると予想される。

(3) 防除上の留意点

ア ほ場内や周囲の雑草（特にアブラナ科）除去に努める。

イ 発生初期の防除に努め、同系統の薬剤の連用は避け、ローテーション散布を行なう。

ウ 薬剤散布を行う場合は、病害虫・雑草防除指導指針（兵庫県農薬情報システム）等を参考に薬剤を選定し、農薬使用基準を守ること。

(<http://www.nouyaku-sys.com/nouyaku/user/top/hyogo>)

6 【モンシロチョウ】

(1) 予報の内容 発生量：平年並

(2) 予報の根拠

ア 場内ほ場では幼虫の発生は認められていないが、成虫の飛翔はほ場及びその周辺で観察されており、今後、幼虫の発生が予想される。

イ 今後1か月の気象予報によると、降水量は平年並と予想されており、気温の上昇に伴い、本種に好適な条件が続くことから、発生が助長されると考えられる。

春レタス

1 【菌核病】

(1) 予報の内容 発生量：平年並

(2) 予報の根拠

ア 4月16日の巡回調査では、発生ほ場率8.3%（平年値19.2%）とやや少ない発生が認められた。今後1か月の気象予報によると、降水量は平年並と予想され、平年並に発病すると予想される。

2 【アブラムシ類】

(1) 予報の内容 発生量：やや少

(2) 予報の根拠

ア 4月上旬の現地調査では発生は認められていないが、今後の気温の上昇に伴って、アブラムシ類に好適な条件になることから発生が予想される。

イチゴ

1 【ハダニ類】

(1) 予報の内容 発生量：やや多

(2) 予報の根拠

ア 3月上旬の現地調査では、発生株率は18%（前年値27%）とほぼ前年並の発生であった。

イ 今後1か月の気象予報によると、気温は平年並または低いと予想されているが、季節の進行による気温の上昇によって、ハダニ類に好適な条件が続くことから、

やや多い発生になると予想される。

(3) 防除上の留意点

ア ハダニ類除去と薬剤効率を高めるため、生育への影響がない程度に古葉を除去する。

イ 早期発見に努め、早期の防除を実施する。

ウ 薬剤を散布する場合は、葉裏や下葉にもよくかかるようにていねいに防除する。

エ 天敵カブリダニを導入している場合は、天敵に影響のある剤の使用を控える。

オ 薬剤散布を行う場合は、病害虫・雑草防除指導指針（兵庫県農薬情報システム）等を参考に薬剤を選定し、農薬使用基準を守ること

(<http://www.nouyaku-sys.com/noyaku/user/top/hyogo>)

2 【アブラムシ類】

(1) 予報の内容

発生量：平年並

(2) 予報の根拠

ア 現地調査では発生がわずかに認められた程度であった。

イ 施設内ではアブラムシ類に好適な環境であることに加えて、今後の気温の上昇に伴って、発生が助長されると考えられる。

3 【アザミウマ類】

(1) 予報の内容

発生量：やや多

(2) 予報の根拠

ア 4月上旬に現地ほ場、場内ほ場ともに発生が認められている。

イ 今後1か月の気象予報によると、気温は平年並または低いと予想されているが、季節の進行による気温の上昇によって、施設内における増殖が進むとともに、施設外からの飛び込みも増えることから、やや多い発生になると考えられる。

(3) 防除上の留意点

ア これからの時期は、気温が高くなることにより短期間で急増して被害が拡大するおそれがあるので、ほ場をこまめに観察し早期防除に努める。

イ 薬剤散布を行う場合は、病害虫・雑草防除指導指針（兵庫県農薬情報システム）等を参考に薬剤を選定し、農薬使用基準を守ること。

(<http://www.nouyaku-sys.com/noyaku/user/top/hyogo>)